

生涯教育研修会報告書

学術部 学発番号 第 12-047 号

平成 25 年 2 月 19 日報告

報告者：高嶋 徹

所属：公立山城病院

連絡先：0774-72-0235

日時：平成 25 年 1 月 16 日（水） 18：30～20：00

場所：公立山城病院 9 階会議室

行事名：南部学術研究班 輸血検査研修会

プログラム：「輸血検査の試験管法とカラム法」

講師：山田 琢也氏(オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社)

協賛：オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社

全体参加人数：13 人

京臨技会員：12 人

内容：

試験管法とカラム凝集法と題して試験管法において判定に影響を及ぼす要因と注意点と、カラム凝集法の原理や特徴および注意点などについて詳しく講義をして頂いた。

試験管法では手技的な問題で反応に影響を及ぼす要因が多く、ピペットの角度や赤血球浮遊液の濃度などによっては、最適な抗原抗体反応が起こらないことにもなる、また、判定についても試験管をそのように振ってどこをどのように見るのか、また、顕微鏡で判定するのかなどさまざま、これも経験が必要である。その点カラム凝集法では理論上適正な条件で反応させ、最適な反応が得られるようであり。特にオートビューなどのフルオート装置ではまったくと言って良いほど経験がなくてもよく客観性もある。しかし異常反応があった場合には、経験や知識が必要になるのは同じである。

今回、各施設が実際行われている輸血業務の方法が、さまざまに在ることも講義のあとのディスカッションでよくわかり、現場で悩んでいることも共有することもでき、これを期に施設によっては業務の見直しなども進められる事にもなると思われる。

公立山城病院 高嶋 徹